



▲子どもたちとふれあう岩月さん



▲パネルシアターや手品なども行い、子どもたちを飽きさせない。



▲今も昔も「火の玉」と聞くと子どもは怖いかも。

“撮っておき” の たかはま

【第40回】

「ひと」「もの」「文化」などなど、有形・無形を問わず、高浜市の日常の暮らしの中にあるとっておきの「お宝」を紹介します。



▲土ようおはなし会の皆さん

高浜の民話とそれを伝える方々

「火の玉ぶらぶら、火の玉ゆらゆら」…遠く油ヶ淵の向こう岸あたりで、右から左へ、左から右へと火の玉が動いています。…」

「怖いー!」「全然怖くなかった」。紙芝居が終わると、じっと集中して聞いていた子どもたちが口々に声をあげた。みんな目を輝かせている。

この「青木の火の玉」という話は、昔から口伝えに語り継がれてきた高浜独自の民話のひとつだ。今の高浜幼稚園があるところに小塚があり、そこに榎木があった。そのそばで子どもたちが夕方まで遊んでいると、東の方でゆらゆら火の玉が見えたというお話。

語り部の「土ようおはなし会」の岩月和子さん(青木町)が、「油ヶ淵のそばで、提灯がゆれているのが火の玉に見えるというお話だけど、大人が子どもたちに、遅くまで遊んではいけないよということをお願いしたかったのよ。」と教えてくれた。

「土ようおはなし会」は、図書館オープン時から30年以上手作りの大型紙芝居で高浜の民話を伝えている。岩月さんが、お盆の浜地藏の御開帳のときに聞いた民話に関心を持ち、後世に伝えたいと紙芝居の制作・上演を行うようになったそうだ。図書館以外でも小学校や高齢者福祉施設など、市内各所で民話の伝承を行っている。制作した作品は13作品で、1作品作るのに半年以上かかるという。

「民話は、心が休まる、言葉につながるふるさとです。テレビもない時代は、おじいさん、おばあさんが子どもたちに、いろいろな昔話をしてあげた時間があったけど、今はなくなりつつある。この紙芝居で少しでも心がふれあう機会になれば。」と語る岩月さん。他のメンバーの方たちは、「子どもたちに元気をもらいながら、頑張っています。お話を聞きに来てくれた子が、お母さんになって子どもと聞きに来てくれたのはうれしかったわ。つながっていますね。」とも。

次回は、秋の図書館フェスティバルで上演予定とのことなので、家族で楽しんでみては。

LEIA A PÁGINA EM PORTUGUÊS!

ポルトガル語のページを読んでください!(P.19)

広報 たかはま

編集・発行／高浜市役所総合政策グループ

〒444-1398 愛知県高浜市青木町四丁目1番地2

TEL (0566) 52-1111 FAX (0566) 52-1110

http://www.city.takahama.lg.jp/

電子メール info@city.takahama.lg.jp

早期配布にご協力ください。



VEGETABLE OIL INK 広報たかはまは植物油インキを使用しています。